

IM西オーストラリア(バスセルトン)参戦記?
2013.12.08 sugimoto




SUNSMART
IRONMAN
WESTERN AUSTRALIA
BUSSETON
8 December 2013



Welcome visitors and athletes

Come in and explore!

2013.12.6 11:11



IM西オーストラリアは 10 回目の記念大会であった。

そして自分にとっては連続 5 回目の参戦である。

会場となるここバッセルトンのジェットイと呼ばれる桟橋付近は海岸沿いに広がる美しく大きな公園で特に朝はすがすがしい。

宿泊ホテルはこの公園に隣接したスイムスタート地点に約 300m程度とほんとに便利だ。

2013.12.10 7:31

スイム会場のスタート地点

インド洋に突き出た約 2kmの桟橋(ジェッテイ)を反時計回りに一周するコース。

今日は全く波が無い日である、当日もこうあって欲しいと願うだけだ。



バイクコース

海岸沿いと森林で覆われた長閑なロケーション、フラットで単調だが新緑がすがすがしい、ただ路面はきれいでも粗い舗装で思うほどのスピードが出ない。
ここを3周回する。

2013.12.6 13:01

バイクラックにセットされた 1500 台余のバイクはテールリムのTTバイクが主流で
自分と同じノーマルバイクは少数派だ。



2013.12.7 15:19

スイム

朝 5:45 今、正にスタートの瞬間である。波は全くなく凪である。気温は 17℃、水温は 21℃程度だろうか、時々朝日が差し込み緊張し神経質になっている気持ちを和らげてくれる。これ以上の好条件は無いと思えた。

今回の参戦は大会の日が近づくにしたいが 9 月頃から不安が大きくなって次第に気弱になっていく自分との戦いから始まっていた。昨年は 16 時間 10 分と初めて制限時間を気にしてのレースだった。それよりももっと脳裏に残った事はスイムで海流に流されライフセーバーに誘導、監視されながら、何とか陸にたどり着いたが砂浜ではしばしの間立ち上がれない程よれよれに疲れ切っていた。そしてほとんど戦意喪失しもうやめても良いかなとさえ思った。

今如何してまたエントリーしてしまったんだろうと悔やむ。やめる潮時を考えるべきだとさえ思った。

そんな不安を払拭するにはやるしかないとの結論から、今年は 9 月末から 2 ヶ月の間ほぼ毎日プールに通い詰めた。35km/月以上(昨年の倍以上)泳いだ、とにかく楽に泳ぎ切る自信が付くまでやろうと思ったからだ。

位置取りは橋から 20m 程度離れた橋沿いのコースとした。若干距離は長くなるが右オープンの自分は水の中から橋桁を確認出来殆んどヘッドアップはしないですむ。

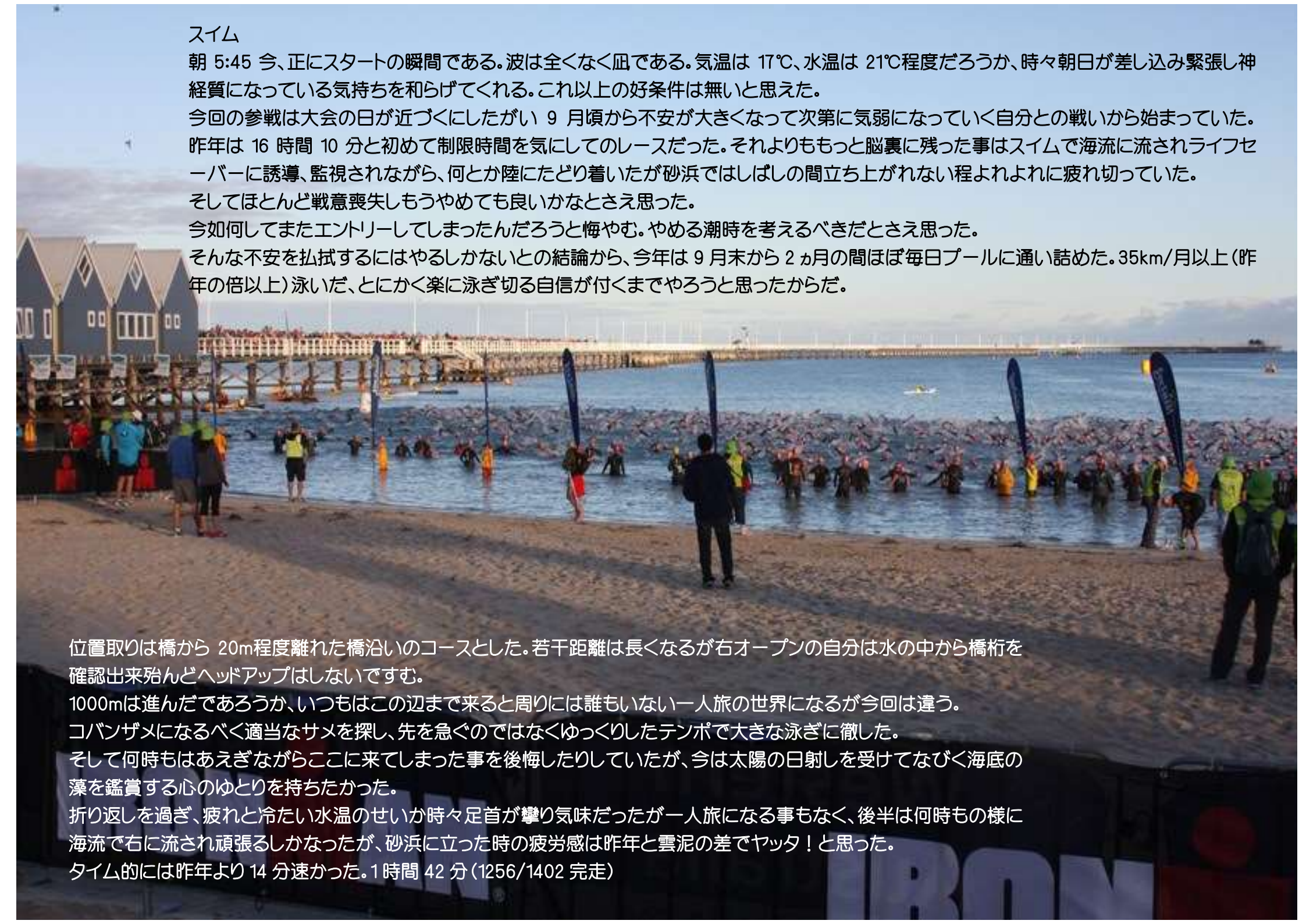
1000m は進んだであろうか、いつもはこの辺まで来ると周りには誰もいない一人旅の世界になるが今回は違う。

コバンザメになるべく適当なサメを探し、先を急ぐのではなくゆっくりしたテンポで大きな泳ぎに徹した。

そして何時もはあえぎながらここに来てしまった事を後悔したりしていたが、今は太陽の日射しを受けてなびく海底の藻を鑑賞する心のゆとりを持ちたかった。

折り返しを過ぎ、疲れと冷たい水温のせいか時々足首が攣り気味だったが一人旅になる事もなく、後半は何時もの様に海流で右に流され頑張るしかなかったが、砂浜に立った時の疲労感はずっと雲泥の差でヤツタ！と思った。

タイム的には昨年より 14 分速かった。1 時間 42 分 (1256/1402 完走)





IRON MAN.
 WESTERN AUSTRALIA
 BUSSELTON



EXPERIENCE
EXTRAORDINARY
 WESTERNAUSTRALIA.COM



City of Busselton
Geographic Bay



eventscorp
 WESTERN AUSTRALIA



EXPERIENCE
EXTRAORDINARY
 WESTERNAUSTRALIA.COM



City of Busselton
Geographic Bay



eventscorp
 WESTERN AUSTRALIA



バイク

高低差が数mと言う全くフラットの3周回するコースで、後輪にデスクホイールを付けたTTバイクが良く似合う。

自分がバイクを開始する頃にはトップ選手に周回遅れにされる何時ものパターンで始まった。

スイムの時は日射しがあり今日は暑くなると思え寒さ対策のアームウォーマは不要と判断した。ところが太陽は雲に隠れ晴れそうで晴れない。寒い！

次第に冷え切って身体は動かない。ウインドブレーカは持っていたが日射しがあれば暑くなるだろう事は予測され止まって着込むかを決めかねた。

寒いせいか、食べ過ぎかどうも胃がむかつく。今回とった朝食は赤飯1パック、前日購入した巻き寿司、バナナそしてアミノジェル若干詰め込み過ぎた様だ。

2周回(120km)過ぎたところからやっと寒さから解放されたが食欲は全くない。もう朝食から7時間は経過しておりガス欠が心配になってくる。水と塩だけは不足しない様こまめに補給したが限界だろうと思え、とにかくむかつきながらも無理やり補給食を始めた。後半1周回で持参した約半分は何とか詰め込んだ。

追い抜いて行くバイクは3周回目に入ると途端にいなくなり、後ろも前にもほとんどバイクの姿はなくなる。

それまでは抜いていく人の為に左端を走行していたが、道路の真ん中を気兼ねなく走る事が出来る。

何処が痛いとか、痙攣を起こしたとか確たる言い訳は見つからないがとにかくタイム的に悪かった。

ほとんどサイクリング状態でタイムを気にする意欲は全くなく、なるがままのマイペースだった気がする。

7時間14分(1276/1402人)



A scenic sunset over a body of water. The sun is low on the horizon, casting a warm glow across the sky and reflecting on the water. In the background, there is a pier with several buildings on it, and some trees on the left side. The overall atmosphere is peaceful and serene.

ラン

バイクを終え、時刻は 14 時 45 分で制限時間までは8時間ほどある。特に激しい痛みや疲労感はないが大腿筋に溜まりきった乳酸はもはや真面な走りにはなりえなかった。次第に足全体が棒の様に感じ、走る事が苦痛になり歩いている割合が多くなってくる。2周回(20km)を過ぎた頃から太陽は沈み気温は急激に下がりだし寒さとの戦いとなって来た。

用意したウインドブレーカを着こんでも堪える。トイレは頻繁になる(5回?)。

昨年初めて制限時間を気にしての暗闇でのランを体験しさびしい気持ちになった事を思い出していた。

今回もタイム的には同じようなパターンに思えたがしかし気持ち的には寂しさも、焦りもなく夕陽を楽しむゆとり? さえ感じた。

毎年戦いに臨むハードルが次第に低くなっていく事を感じている。自分自身に対しての「言い訳」もうなくなった。

以前は設定したタイムより遅かったり、ランで歩いたりは許しがたかったが、今では制限時間内に戻れば、完走出来れば満足と思える様になって来た。

7 時間 07 分(1305/ 1402 人完走)

MART
DNMAN
ERN AUSTRALIA
SELTON



ラッキーにも 70-74 オクラスで 3 位入賞だった。(実は完走者 3 人だが...)
タイムはともあれ 1000 人はいるだろう会場の壇上でスポットライトを浴びるのは悪くない。

2013. 12. 9 20:39

GO SMIDDY!

何と言っても今年の収穫はスイムでの自信だった。

そして今更ながら「やった事に対しては嘘つかない」この世界では奇跡は無い事を感じた。

一度自信を失いかけ、そろそろ止める潮時を探していたかもしれないアイアンマン参戦。

大会が終わってみて少し気持ちの変化を感じている。

まだやれば出来るはずだ、やれない言い訳を探すのは早いし後悔すると思った。

そして先日、次のIM 西オーストラリアのエントリーを済ませた。

